

將軍や統領（多くの人々を治める人）となる人には、八種類ある。一には「仁将」である。仁将は公（おおよけ）のために戦うことを基本として、天下の為に兵を發する。私的なことで人に危害を与えることは無い。したがって、仁将の向かう所には前に立ち塞がる敵はいない。二には「礼将」である。正しく兵を用いることに心掛け、道理に反するような軍を出兵させない。又、不正な方法で敵を討つようなことをしない。したがって、礼将には孫呉（三国時代に孫権が長江流域に建てた王朝。首都は現在の南京付近）の世兵制（せいへいせい）西歐中世の封建制度に似た軍団世襲制度）を任せられるのである。三には「智将」である。智将は権（状況を急変させて、にわかには勝敗を決定づける決め手）の変化を察し、士気の盛衰を観て、弛（ゆる）めるべき時と張りつめるべき時を使い分け、軍の進止が法則に合致している。それ故に、智将は戦いを始めるべきときを知り、有終の美を飾るのである。四には「強将」である。剛毅にして鉄石のような心であり、節を曲げず、大敵に当たればその堅い甲を砕き、生まれながらの徳が有り、健全で勇猛果敢である。このように強者でありながら柔軟性もある。五には「威将」である。威将は自然のうちに将としての威徳がそなわっている大器である。人望が有り、その権勢は世を圧するに十分である。六には「利将」である。国に利益をもたらすことを根本とした現実主義者であり、沈着冷静にして実力行使に徹する。道義心と勇氣に富み、家業を重んじることなどには未練が無い。七には「守将」である。軍法を整え、訓令や命令を広く行き渡らせ、兵卒の隊伍を完璧にさせ、自分はただ簡素に徹して不敗を旨とする。八には「闘将」である。頭脳明晰にして志気が闊達であり、敵と我との状況を比較していずれに勝算があるかを推察し、奇変のために磬（けい）古代シナの打楽器）を控えて（一切の音や兆候を頭わさず）、戦機（チャンス）に応じ敵に先だって戦い、これら全てが自得したものである。こうした將軍たちを良将という。